

イベント指向データ管理手法を用いた系図表示 — 複数の系譜情報の併記手法 —[¶]

横澤大典^{*}, 生田敦司^{*}, 杉山正治^{*}, 平塚聡[§], 柴田みゆき^{*}, 松浦亨^{**}
大谷大学^{*}, 立命館大学[§], 北海道大学病院^{**}

1. はじめに

歴史的な史料や伝承で伝えられる系譜には、例えばある系譜で親子とされる関係が別の系譜では兄弟とされているなど、「異説」と言うべき系譜情報のバリエーションが存在する。人文学の分野では、系図を扱うにあたって、こうした異説の情報整理が必要となる。

一方、我々はこれまでに、新しいデータ管理手法である Widespread Hands to InTErconnect BASic Elements (略称:WHItEBasE) を用いた系図表示手法を提案し、プロトタイプソフトウェアを開発してきた [1].

しかし、WHItEBasE を含めた既存の系図表示ソフトウェアを用いて系譜の異説を比較検討するには、それぞれの個別の画面を立ち上げるしかなく、これらを1つの系図上で表現できない。系図情報のデータ様式の事実上の標準となっているGEDCOM(GEnealogical Data COMMunication)[2]でも、系譜の異説をデータとして持つことはできない。

そこで本研究では、我々のプロトタイプソフトウェアに異説表示を実装する第一歩として、異なる情報を持つ系譜を系図上に同時表示するにあたっての問題点を整理検討する。

2. 異説表示の概要

2.1. 系譜の異説の例

よく知られている異説としては、例えば源頼朝などを輩出した武家の源氏の「陽成源氏説」がある。

通常、この家系は清和源氏といわれる。『本朝皇胤紹運録』[3]などが記す系譜では、この家系の祖源経基は、清和天皇の皇子貞純親王の子とされる(図1(a))。

一方、「源頼信告文」[4]という文書史料が記す系譜では、経基は陽成天皇の皇子元平親王の子とされている(図2(a))。これに従えば、経基の子孫は清和源氏ではなく陽成源氏ということになる。この史料の系譜では、他にも、押坂彦人大兄皇子が欠落していたり(図2(b))、天智天皇・施基皇子の父子関係が逆転していたり(図2(c))など、図1(b)(c)のような通説とは異なる記載がいくつか見られる。

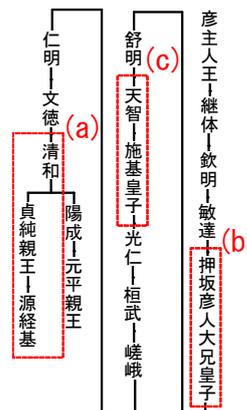


図 1: 清和源氏説

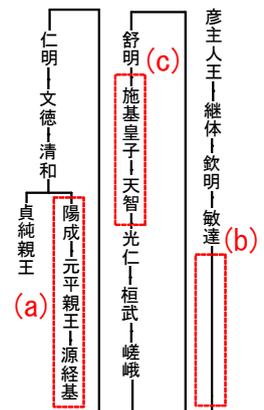


図 2: 陽成源氏説

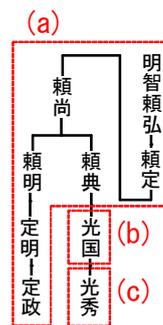


図 3: 土岐系図

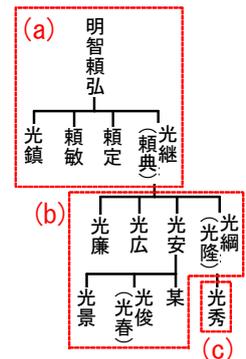


図 4: 宮城家相伝系図書

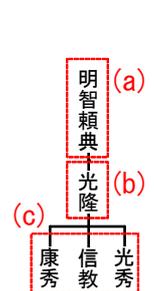


図 5: 明智系図

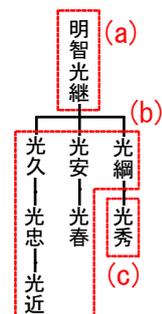


図 6: 系図纂要

また複雑な異説としては、中世以降、多くの系図が作成されるに従って系譜情報の異同も多くなるが、織田信長の家臣明智光秀の家系などもその一例である。

『大日本史料』[5]に収載された諸系図を元に作成した明智氏の代表的な系図を、図3-図6に示す。

これらの図のうち、(a)は光秀の祖父以前と祖父の兄

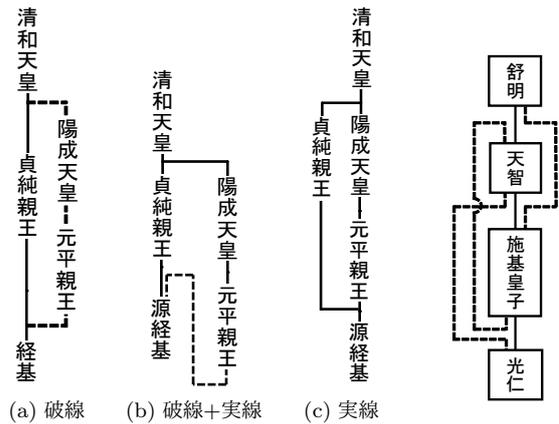
[¶]Displaying Genealogy with Several Possible Origins
^{*}Daisuke Yokozawa, Atsushi Ikuta, Seiji Sugiyama and Miyuki Shibata: Otani University
[§]S. Hiratsuka: Ritsumeikan University
^{**}Tohru Matsuura: Hokkaido University Hospital

弟, (b) は光秀の父とその兄弟, (c) は光秀とその兄弟にあたる部分である. 各部を比較すれば明らかなように, 人物の有無・関係・名前などが系図によって著しく異っており, 明智氏の系譜に様々な異説が存在することがわかる.

2.2. 人文学での表現例

人文学において系譜の異説を表現する場合, 系図を個別に並べて比較することが多い [6]. ただしこの場合, 異説の数や規模が大きくなるほど, 閲覧者は自分で各部を比較し, 違いを考えながら理解しなければならない.

これに対し, 1つの系図上で異説を組み合わせると同時に示すこともある. 先述した清和源氏/陽成源氏説を例に, 人文学の研究で見られる表示をリライトしたものを図7に示す. これらを見ると, 異説部分の線分を破線のみで示す場合 (図7(a)) [7], 破線と実線を組み合わせる場合 (図7(b)) [8], 実線のみで示す場合 (図7(c)) [9] などがある. またこれらの場合, 共通した図像化規則は特に存在していないこともわかる.



(a) 破線 (b) 破線+実線 (c) 実線

図7: 人文学での表現例

図8: 親子の逆転

以上から, 異説の同時表示にあたって求められる条件をまとめると, 次の3点に集約される.

- (1) 個性・線分・付帯情報などの異説を容易に区別できる図像化規則
- (2) 個性が複数の親・名前・付帯情報を持つことを可能とするデータ構造
- (3) 異説を同時に表示したり切り替えて表示したりできる画面表示システム

3. 異説表示の問題点

異説表示の問題点として, 以下が考えられる.

- (A) 異説の個性や線分の数や複雑さが増すに従って, 閲覧者が混乱しやすくなる. 図7を見ても, 親子や養子と同種の線分が使われているため, 異説の意味を一目で読み取るのは難しい. さらに, 明智氏の系図 (図3-図6) のように異説の個性も同時に表示しなければならない場合, 線分の区別だけでは不十分である. 閲覧者が, 個性と線分を異説ごとに明確に区別できなければならない.
- (B) 親子の関係が入れ替わる異説を表示する場合, 線分が複雑化する. 図8に, 先述した天智天皇・施基皇子の関係に見られる異説 (図1(c), 図2(c)) を, 便宜的に実線と破線を用いて同時に示した. このような線分の複雑化をできるだけ回避し, 視認性を保ちながら比較できなければならない.
- (C) 系譜によって親が異なる説を表示する場合, データ上では1つの個性が複数の実の親を持つことになる. 全く等質な実の親が複数存在するデータ構造を検討する必要がある.
- (D) 個性の名前や付帯情報 [10] が異なる説を表示する場合, データ上では1つの個性が複数の情報を持つことになる. 複数の名前や付帯情報を持つことができるデータ構造も必要となる. さらにこの場合, 1つの個性に付随して膨大な情報が系図上に表示されることになり, どの情報がどの異説に相当するか区別しにくくなる. 個性や線分だけでなく, 付帯情報なども視認性よく表示できる必要がある.

4. おわりに

以上, 本研究では, 系図表示ソフトウェアにおいて複数の系譜情報を同時表示するにあたっての問題点を整理検討した. 今後はこの結果を基礎として, 異説表示の実装に向けて検討を進める予定である.

参考文献

- [1] Seiji Sugiyama, et. al., “Displaying Genealogy with Various Layouts by Using the WHItEBasE”, International Journal of Computer Information Systems and Industrial Management Applications(IJCISIM), ISSN 2150-7988, Volume 6, pp.102-115, 2014(公開日 2013年7月1日)
- [2] 齋藤晋他, “イベント指向データ管理手法を用いた系図表示-GEDCOMの問題点と互換性-”, 情報処理学会第76回全国大会, pp.4-421-422, 2014
- [3] 塙保己一編, “群書類従 第5輯”, 続群書類従完成会, pp.15-44, 1932
- [4] 東京帝国大学編, “大日本古文書 家わけ第4 石清水文書1”, 31号文書, 東京帝国大学, pp.67-71, 1909
- [5] 東京帝国大学編, “大日本史料 第11編 第1巻”, 東京帝国大学, pp.515-522, 1927
- [6] 小和田哲男, “明智光秀”, php 研究所, pp.31, 1998
- [7] 高橋典幸, “源頼朝”, 山川出版社, pp.7, 2010
- [8] 元木泰雄, “河内源氏”, 中央公論新社, 2011
- [9] 元木泰雄, “源満仲・頼光”, ミネルヴァ書房, pp.16, 2004
- [10] 横澤大典他, “イベント指向データ管理手法を用いた系図表示-付帯情報を表示するための前提と整理-”, 情報処理学会第74回全国大会, pp.4-539-540, 2012